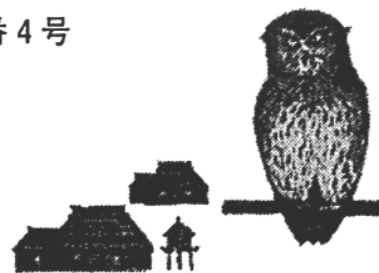


# コタンメール

第37号 平成19年5月31日 発行



## EU 議員団が来館

5月30日、EU・ヨーロッパ連合加盟国の国会議員の一行が、視察の一環として当館を訪れました。ドイツのヤルツェンボウスキー議員を団長とするEUの国会議員団24名は、記念撮影を行ったのち、伝承課職員による特別公演と常設展示を見学しました。

日本の先住民であるアイヌの存在をヨーロッパに向けてアピールする好機でもあり、特別公演は熱の入ったものになりました。次の機会には「伝統文化」だけでなく、今日的な課題についても知ってもらおう場を持ちたいと思います。

見学後は、リニューアルオープンしたミュージアムショップ「イカラカラ」での買い物を楽しみました。着物などの手工芸品やムツクルへの関心が集まり、職員を囲んで指導を受けながら、演奏にチャレンジしていました。中には、楽器だけでなくCDを購入する議員もいました。

(北原次郎太)



## 白老東高校体験学習実施

5月9日(水)、白老東高校2年生124名が、郷土学習の一環として、伝統料理試食、すだれ編み、トンコリ演奏の体験学習を受けに来館しました。

伝統料理食体験は全生徒で食べましたが、すだれ編みとトンコリ演奏体験は、4班ずつに分かれ、交代で実施しました。すだれ編み体験は、始めは不慣れな手つきでしたが、すぐに要領を得て編み上げていました。トンコリ演奏体験では、楽器を習っている生徒の覚えが早く、特にギターを弾いているという生徒の上達が早いように感じられました。

来月25日には、同校1年生が来館し、同内容の体験学習を行う予定です。

(木田瑞恵)



すだれ編み体験

# アシリカンピソシ エク ナ (新しい本が来たよ)

『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 歌謡・散文編』

『四宅ヤエの伝承』刊行会編 2007年2月20日発行

四宅ヤエさんは、1904(明治37)年北海道東部の白糠町に生まれ、晩年は阿寒湖畔で暮らした方です。歌や物語の名手として知られるとともに、かつての生活文化にも広い知識を持ち、アイヌ文化に生涯誇りを持っていらしたといえます。

四宅さんのもとに通う研究者も多く、本書は富水慶一さんが1968年に行った聞き取りの成果をまとめたものです。当時の録音機はオープンリール式という大きなもので、テープも高価でした。四宅さんの自宅で、アイヌ語の歌や物語、その解説などが収録されました。

本書はそれらの録音のうち、歌とまじない言葉、散文(メロディのない)物語の音声を収め、アイヌ語原文・日本語訳をつけています。物語の部分は白糠地方のアイヌ語資料としても貴重です。歌の方も実に豊かです。主題を見ると、どんな歌だろうと聞いてみたくなるものばかりです。本書は、博物館1階の学習室で閲覧できますので、どうぞご利用ください。



『歌謡編』から一例

- 「夫を想って白鳥になった女の歌」
- 「ヨシが今にも倒れそうに揺れている様子の歌」
- 「沖から寒い風が吹いて来る様子の歌」
- 「ラッチャク(ランプ)の焰が揺れる様子の歌」
- 「布雲がたなびいている様子の歌」
- 「まいたけ採りの歌」
- 「糸紡ぎの歌」
- 「バツタ踊り」
- 「昆布を採りに行くときの歌」
- 「ムックリ演奏 熊が子を呼ぶ様子」
- 「ムックリ演奏 熊が沢越え山越えて逃げる様子」

(北原次郎太)

## アイヌ語教室のご案内

- 6月16日(土) 中級編1
- 6月23日(土) 初級編2
- 7月14日(土) 中級編2
- 7月15日(土) 初級編3

講師：本田優子先生(札幌大学文化学部教授)

場所：博物館研修室(2F) 時間：17:30~19:00

参加ご希望の方は、下記まで事前にご連絡ください。

博物館学芸課 TEL 0144-82-4199 FAX 0144-82-6121